



会社案内

2024-2025



スズキ株式会社

本社：〒432-8611 静岡県浜松市中央区高塚町300
<https://www.suzuki.co.jp>
(2024.8)

社是

社是

「お客様の立場になって
価値ある製品を作ろう」
「協業一致清新な会社を
建設しよう」
「自己の向上にとつとめ常に
意欲的に前進しよう」

社是の第一に掲げる「価値ある製品を」をモットーとして、スズキグループの全従業員が価値の創造者となるべく、日々努力を続けています。

行動理念

「小・少・軽・短・美」

もともとは生産の現場における、ムダを省いた効率的で高品質なものづくりの基本方針として始まった「小さく」「少なく」「軽く」「短く」「美しく」を略したものです。その後は生産にとどまらず、あらゆる部門のあらゆる場面において仕事をすることで目指すべき言葉として、海外まで広く浸透。スズキの製品づくりにもその長が活かされており、長年にわたり、スズキの行動理念の端的な表現として定着しております。

小 はコンパクトにまとめる方が効率アップに繋がり、

少 はムダを省き必要なことには適切に資源を配分し、

軽 は効率アップのためにスリム化を図り、

短 は意思決定と実行や報連相をスピードアップするという意味があります。

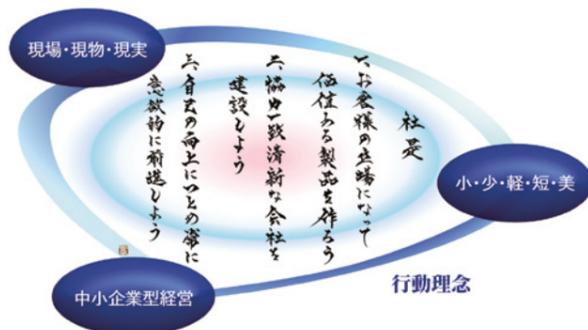
美 には全ての活動がお客様のためにあるという意味が込められており、性能、品質、コスト、信頼、安全・安心、コンプライアンス、全てを満たして初めてお客様満足が得られるという考えに繋がっております。

現場・現物・現実

直ちに現場へ行き、現物を見たり触ったりして、現実的に判断いたします。机上の空論を徹底的に排除し、実際に現場で現物を観察し、現実を認識し物事の本質を的確に捉えたうえで、現実的な問題解決を図ります。

中小企業型経営

意思決定の速さ、人と人との距離の近さ、変化に対応できる柔軟性、これらを常に持ち続けることは、いわば「中小企業型経営」に例えられます。企業規模が拡大しても、決して大企業病に陥らないよう一人ひとりが努めます。社会的使命を果たすために、果敢に挑戦し続けます。



代表取締役社長 **鈴木俊宏**

1920年に織機製造を祖業としてスタートしたスズキは、自転車用補助エンジン「パワーフリー号」を1952年に発売し輸送用機器事業に進出して以来、四輪車、二輪車、船外機、セニアカーなどの使いやすくお求めやすい製品の提供を通じて、人々の快適で豊かな暮らしに貢献してきました。日本のみならず海外にも事業を展開し、世界中の人々に「生活の足」を提供し、お客様のより良い暮らしと経済社会の発展に微力ながらも貢献を続け、こうして創業104年目を迎えることができました。

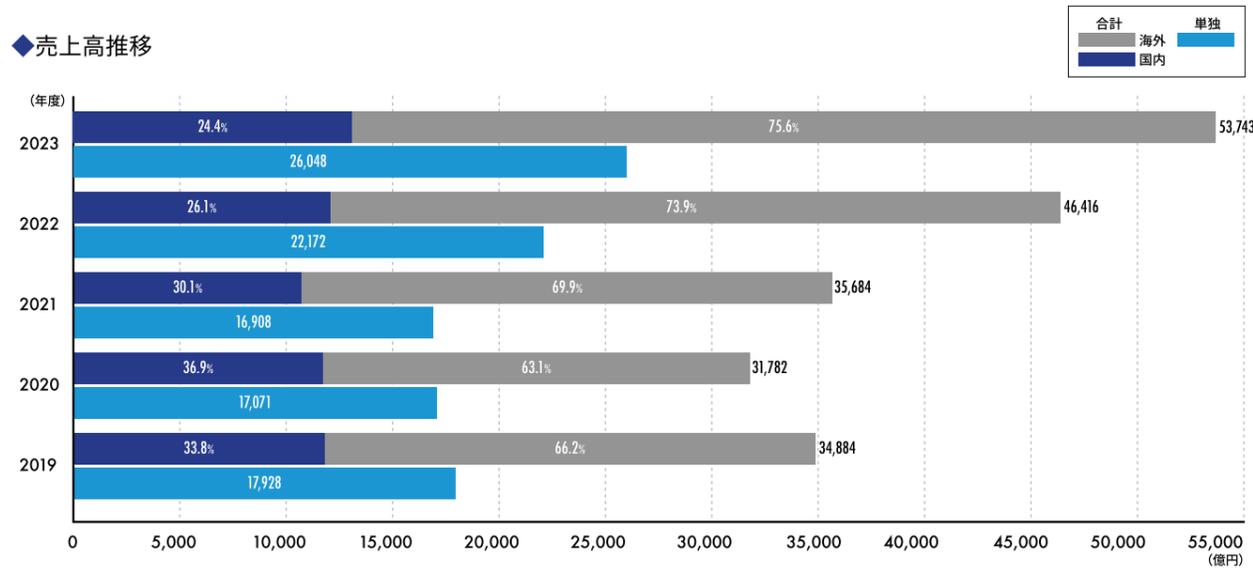
これからも「お客様の立場になって価値ある製品を作ろう」から始まる社是を意識し、スズキグループ全員が協力一致し、従業員一人ひとりが自己の向上に努めて、お客様に価値ある製品を提供してまいります。

会社概要

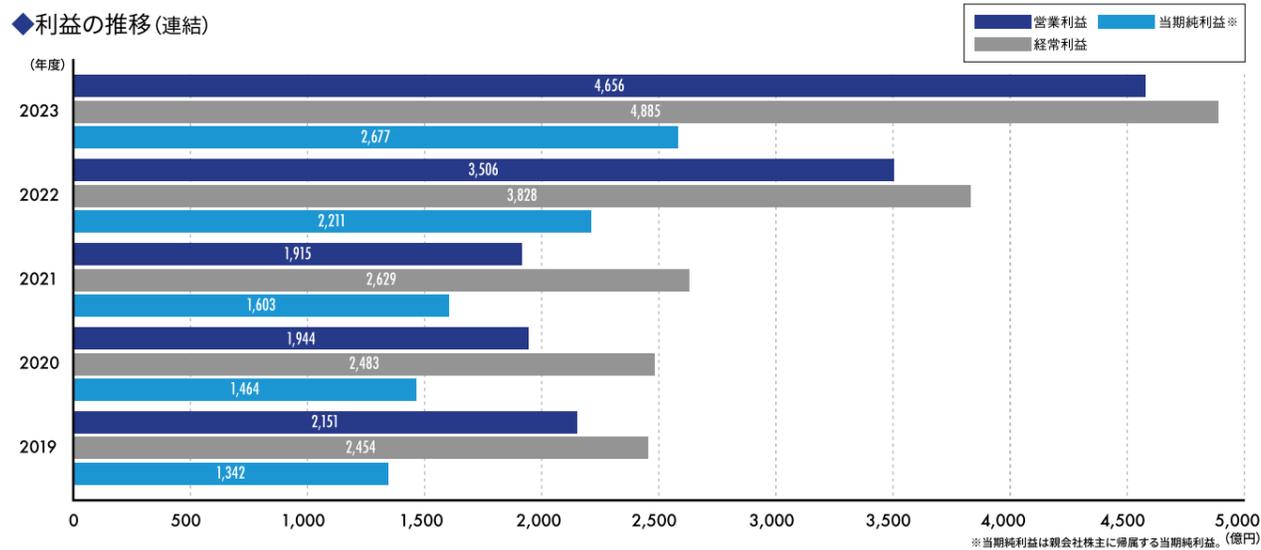
◎社名 スズキ株式会社
 ◎設立 1920年(大正9年)3月
 ◎資本金 138,370百万円(2024年3月31日現在)
 ◎代表者 代表取締役社長 鈴木俊宏
 ◎従業員 連結:72,372人 単独:16,955人(2024年3月31日現在)
 ◎売上高 連結:5兆3,743億円 単独:2兆6,048億円(2024年3月期)
 ◎主要製品 四輪車・二輪車・船外機・電動車いす等
 ◎主な事業所
 本社 静岡県浜松市
 湖西工場 静岡県湖西市
 磐田工場 静岡県磐田市
 大須賀工場 静岡県掛川市
 相良工場 静岡県牧之原市
 浜松工場 静岡県浜松市
 金型工場 静岡県浜松市
 東京支店 東京都港区
 横浜研究所 神奈川県横浜市
 マリン技術センター 静岡県湖西市

◎スズキグループ (2024年3月31日現在)
 連結子会社計 119社
 <国内>
 国内連結子会社計 66社
 (株)スズキ部品製造、(株)スニックなどの製造会社 および
 (株)スズキ自販東京、
 (株)スズキ自販近畿などの直営代理店
 <海外>
 海外連結子会社計 53社
 マルチ・スズキ・インディア社(インド)
 パックスズキモーター社(パキスタン)
 マジャールスズキ社(ハンガリー)
 スズキ・インドモビル・モーター社(インドネシア)
 スズキ・モーター・タイランド社(タイ)などの製造会社および
 スズキドイツ社(ドイツ)などの販売会社
 関連会社 31社

売上高推移

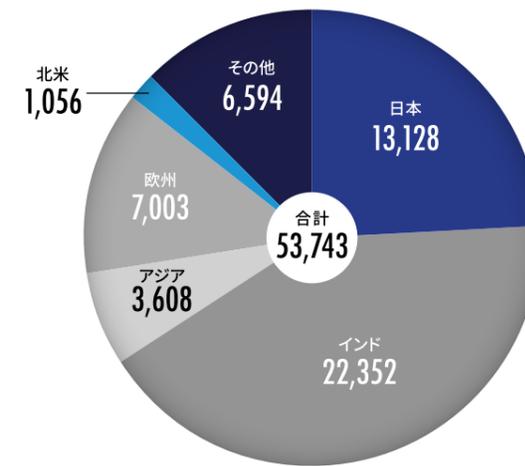


利益の推移(連結)

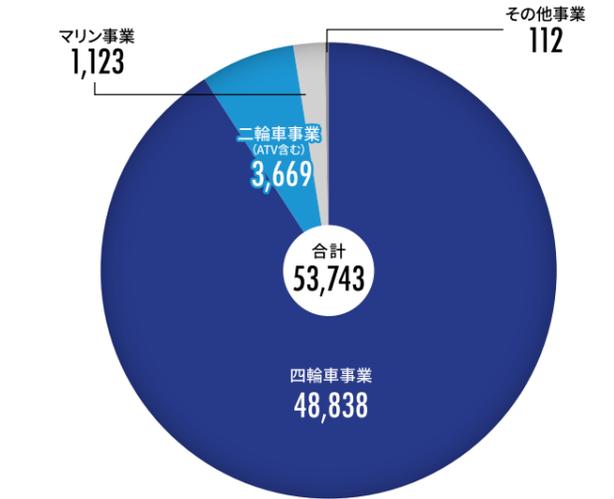


実績(2024年3月期)

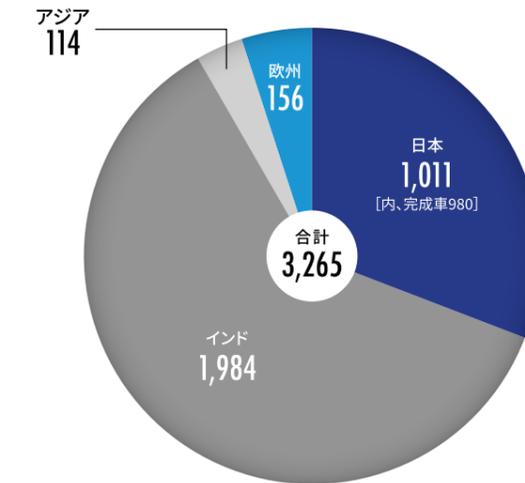
地域別 連結売上高(億円)



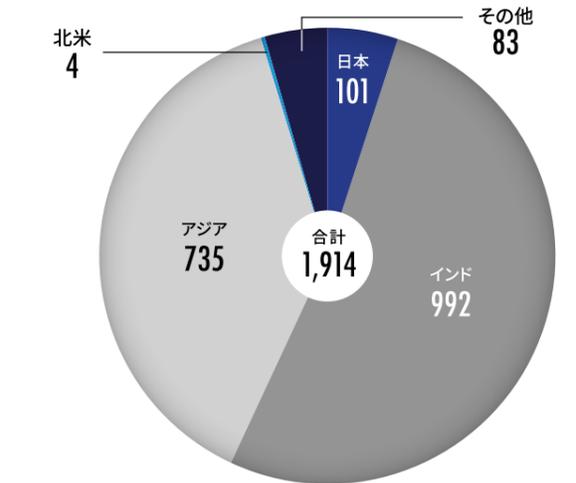
事業別 連結売上高(億円)



四輪車生産台数(千台)※

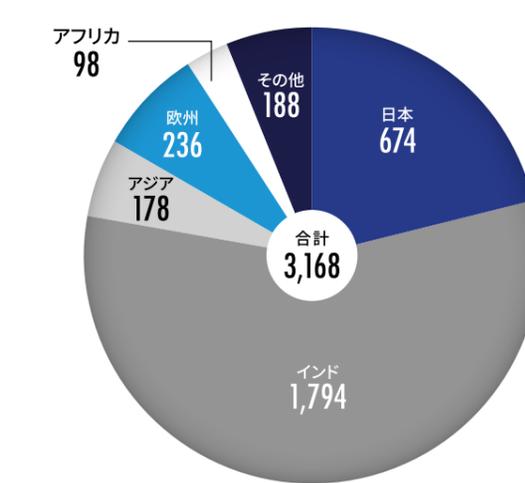


二輪車生産台数(千台)※

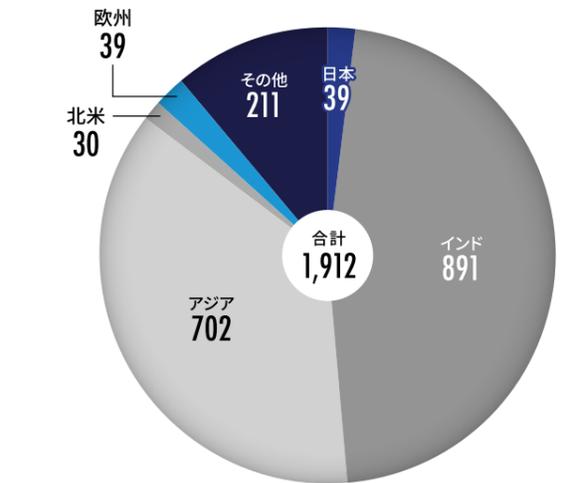


※国内生産:完成車生産台数+CKD生産台数。海外生産台数:現地ラインオフ台数(日本からのCKD分を除く)。

四輪車販売台数(千台)



二輪車販売台数(千台)



※当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益。(億円)



エネルギー極少化に向けた技術戦略2024

スズキは製造からリサイクルまで「エネルギーを極少化させる技術」を実現し、世界中の人々に移動する喜びをご提供しつつ、カーボンニュートラルな世界を目指します。



軽くて安全な車体

スズキが得意とする小さく軽いクルマは、走行時のCO₂排出量が少ないだけではなく、製造に必要な資源や製造で排出するCO₂も少なくでき、省資源やCO₂削減に貢献してきました。安全で軽量の「HEARTECT（ハーテクト）」をさらに進化させ、軽量化技術によるエネルギーの極少化に取り組んでいきます。



譲り合いをクルマ全体まで広げるチームスズキのプロジェクト

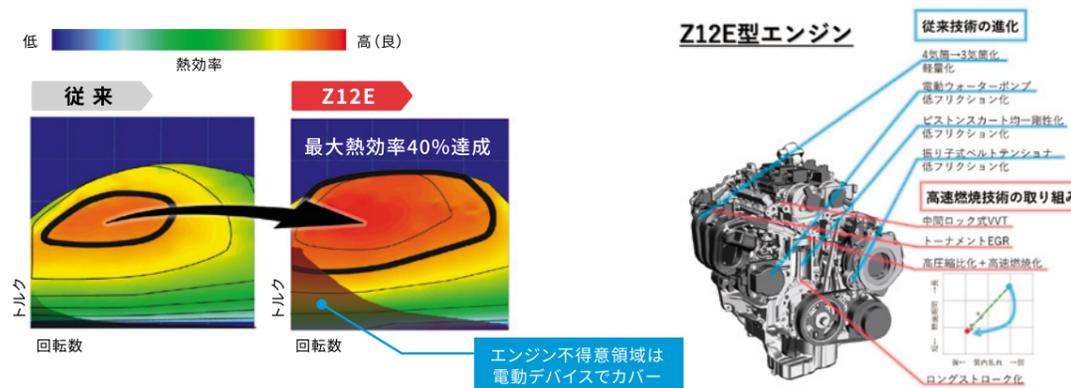
バッテリーリッチなBEV/HEV (Battery Electric Vehicle/Hybrid Electric Vehicle)

スズキは国や地域の再生可能エネルギー化の状況、お客様の使用状況に合わせ、最もエネルギー効率が良い選択となる「適所適材な電動車をお客様にお届けする」ことを目指し、小さく効率が良い電動ユニット、小さく軽い電池など「小・少・軽・短・美」を体現し、エネルギーを極少化した電動車を開発していきます。



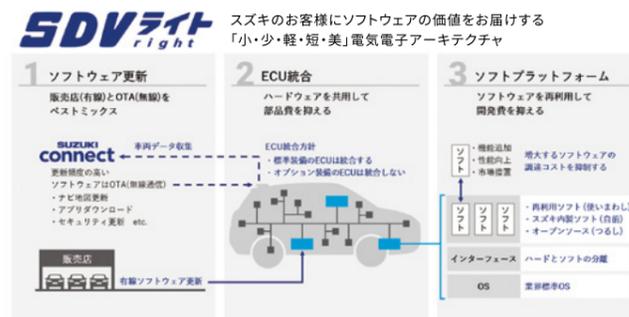
効率良いICE、CNF技術 (ICE:Internal Combustion Engine、CNF:Carbon Neutral Fuel)

2023年、内燃機関の根幹となる燃焼を追求した高効率エンジン (Z12E型エンジン) を開発し、最大熱効率 40% を達成しました。今後はこの高効率エンジン技術を全展開するとともに、カーボンニュートラル燃料対応や、次世代ハイブリッドによるエネルギー極少化を実現します。



SDVライト (SDV:Software Defined Vehicle)

スズキは、SDVについても「小・少・軽・短・美」によるエネルギー極少化を具現化したアフターダブルな仕組みでクルマの価値を創造する「SDVライト」を開発し、お客様にご提供していきます。ソフトウェア更新は有線と無線 (OTA) をベストミックスし、より使いやすいものにします。また、ハードウェアを共有して部品費を抑え、ソフトウェアを再利用して開発費を抑えるなど、「これでいい、これがいい」とお客様に感じていただけるSDVを目指します。



スズキらしい使う人の立場に立った更新戦略。そしてソフトウェアの使いまわし。その元となるソフトウェアはすでにあるものを。スズキは「ちょうどいい」「これでいい、これがいい」装備でお求めやすい価格を実現していきます。

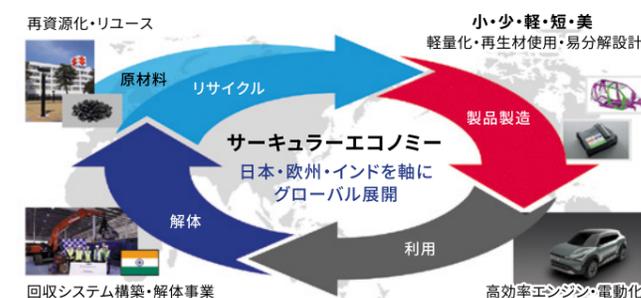


世界中のお客様に地域最適な安全を提供します。

リサイクルしやすい易分解設計

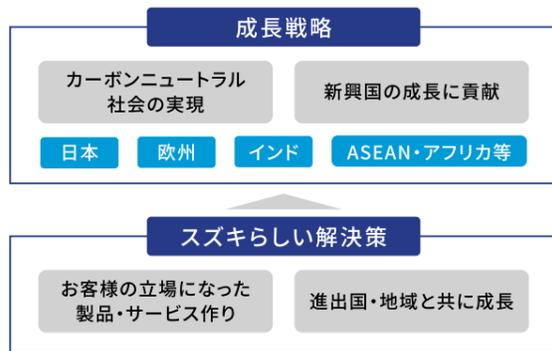
これまでのリニアエコノミー(直線型経済)では、原材料採掘から製造・利用・廃棄の流れが一方向で、エネルギーの大量消費、資源の枯渇、環境破壊を引き起こしてきました。スズキは今後、リサイクルや再利用を前提にした分解しやすい製品設計を行うことで、資源の総使用量を抑制し、エネルギー極少化によるサーキュラーエコノミー(循環型経済)を実現します。

「小・少・軽・短・美」の思想でライフサイクル全体のエネルギー極少化と、サーキュラーエコノミーを実現



2030年度に向けたスズキの成長戦略

スズキは2030年度に向け、主要事業地域である日本・インド・欧州を核にして、カーボンニュートラル社会の実現とインド・ASEAN・アフリカなどの新興国の経済成長に貢献していきます。お客様の立場になった製品・サービス作りと進出国・地域とともに成長するというスズキらしい解決策に取り組んでいきます。



2030年度に向けた主な取り組み

カーボンニュートラル

スズキは、各国政府が掲げる達成目標時期に基づき、日本・欧州で2050年、インドでは2070年のカーボンニュートラルの達成を目指していきます。

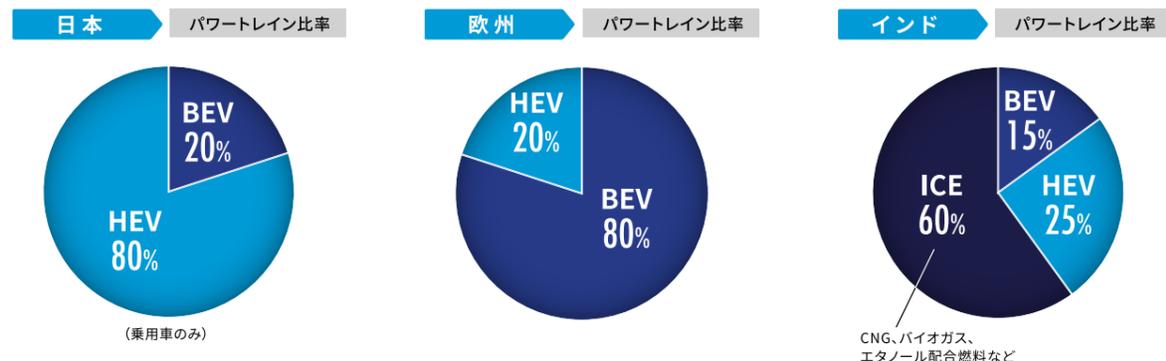


製品分野

お客様のニーズと利用スタイルに対応した、適所適材のEVを開発していきます。

四輪車

スズキの主要事業地域である日本、欧州、インドの2030年度におけるパワートレイン比率の目標を定めました。日本とインドのバッテリーEV比率が低くなっておりませんが、これは各国の充電インフラやエネルギー事情などを考慮したうえで、最終的にEVに至るまでは、ハイブリッドなど複数の選択肢を用いた、より現実的なアプローチを考えているためです。



トピックス

持続的成長を目指した人的資本の増強

～人事制度を刷新し、「個の成長」の加速と「個の稼ぐ力」を強化～

スズキは、2030年度に向けた成長戦略の達成及び持続的成長を実現するため、社員一人ひとりが自身の能力を最大限に発揮できる環境を整備していきます。その一環として、2024年4月から人事制度を全面的に刷新しました。新しい人事制度は、社員一人ひとりの挑戦と行動、価値創造を通じて、個の職務能力向上と成長を促します。チームスズキ全員が、社是と行動理念『小・少・軽・短・美』『三現主義』『中小企業型経営』に則り、知識・スキル・ノウハウを備え、現場での経験を重ねることで、スズキ人材としての職務能力を高め、組織の稼ぐ力を上げていきます。

今回実施する制度改革のポイントは以下のとおりです。

職能資格制度の導入

- ▶ 各職系・階層ごとの役割と社員一人ひとりの職務遂行に必要な能力要件を明確化した職能資格制度へ移行。
- ▶ 各本部の職務で必要とされる知識・スキル・ノウハウ・経験を明示し、職務能力の増強に活用。

評価制度の見直し

- ▶ 業績と職務能力の向上は別々に評価し、短期の業績は賞与に、職務能力は昇給・昇格に反映。これによりさらに挑戦できる環境の醸成を図る。
- ▶ 能力評価の項目を明示し、上司と部下の相互コミュニケーションを通じて職務能力改善に取り組む。

60歳以降の働き方の見直し

- ▶ 60歳を過ぎても、気力・体力・環境に問題がなければ、60歳時点の業務と給与を維持。
- ▶ 全社レベルの人材マッチングと再教育による個の職務能力に最適な配置を実現し、60歳以上の方々が活き活きと働くことができる会社を目指す。

給与・手当・初任給の見直し

- ▶ 職務と職能に基づく給与体系を導入。
- ▶ 子育て支援、通勤、国内出向などの各種手当を見直し。
- ▶ 初任給を大幅に引き上げ、若年層からの賃金カーブの立ち上がりを改善。

二輪車

小型・中型二輪車は、2030年度までにバッテリーEVを8モデル展開し、バッテリーEV比率25%を計画。大型二輪車については、カーボンニュートラル燃料での対応を検討。



船外機

小型船外機は、2030年度にバッテリーEVを5モデルを展開し、バッテリーEV比率5%を計画。大型船外機については、カーボンニュートラル燃料での対応を検討。



電動モビリティ

お客様ニーズの多様化や環境の変化による新たな市場に向けて、生活を支える小さなモビリティに挑戦。

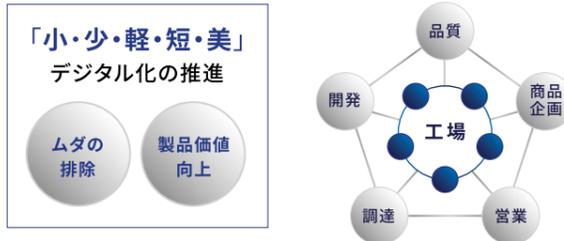
製造分野

日本国内の工場は、2035年度のカーボンニュートラル達成に挑戦。

「CO₂排出量の削減」+「お客様に価値ある製品・サービスの提供」

スマートファクトリー創造

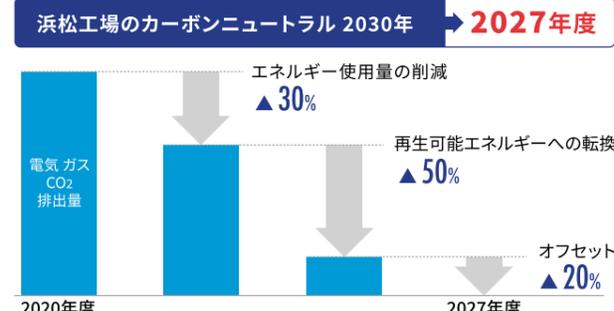
世界の生活の足を守り抜く企業であり続けるために、2030年度のモノづくりのあるべき姿を描き、スズキスマートファクトリー創造を進めます。スズキのモノづくりの根幹である「小・少・軽・短・美」とデジタル化の推進を組み合わせることで、データ・モノ・エネルギーの流れを最適・最小化、簡素化し、徹底的にムダをなくして、カーボンニュートラルへつなげていきます。



国内工場での取り組み

国内最大の生産拠点である湖西工場では、塗装設備の刷新と塗装技術の向上により、使用するエネルギーを効率化/最適化し、塗装工場のCO₂排出量30%削減に取り組んでいます。さらに、太陽光発電等の再生可能エネルギーからグリーン水素を製造し、その水素をエネルギー源として荷役運搬車両を走らせる実証実験を2022年末に開始しました。

二輪車の生産拠点である浜松工場は2030年のカーボンニュートラル達成を宣言していましたが、エネルギー使用量の削減や再生可能エネルギーへの転換により、カーボンニュートラル達成を2027年度に前倒しします。浜松工場のノウハウを他工場にも展開することで、2035年度の国内全工場のカーボンニュートラル化に取り組んでいきます。



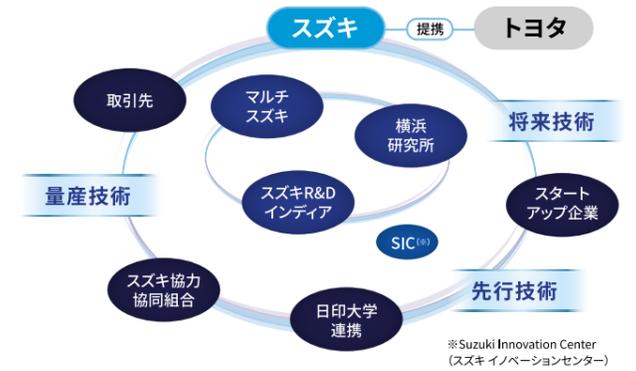
インドでのバイオガス事業



インドのカーボンニュートラル社会の実現と農村地域の発展に向けてバイオガス事業にも挑戦しています。これはインドの農村部に多い牛糞などの酪農廃棄物を原料として、バイオガスの製造・供給とバイオガス精製過程で発生する固形物・液体を有機肥料とするものです。この牛糞で製造したバイオガスはCNG車に活用することが可能な燃料となります。また、牛糞を原料にすることで農家の新しい収入源の一つとなり、地域農業の発展に貢献できるものと期待しています。さらにその先には、インド全体に供給することや発電所建設も視野に入れています。

研究開発体制・外部連携

スズキ本社、横浜研究所、スズキR&Dセンターインド、マルチスズキが連携し、将来技術、先行技術、量産技術の領域分担をしながら、効率的に開発していきます。また、スズキがインドに徹底的に根付くため、スズキイノベーションセンターが0から1を見つけ出す探索活動を行なっています。さらにスタートアップ企業、スズキ協力協同組合、日本・インドの大学との共同研究による産学官連携などグループ外とも連携しながらモノづくりの力を高めていきます。トヨタ自動車株式会社とは、競争者であり続けながら協力開発を深化させ、持続的成長と自動車産業を取り巻くさまざまな課題克服を目指していきます。

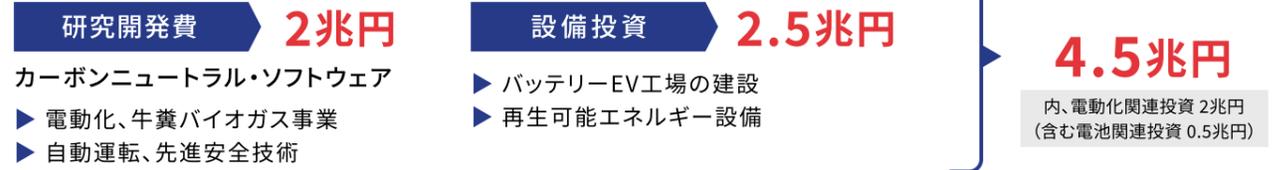


2022年に設立したコーポレートベンチャーキャピタルファンドのSuzuki Global Venturesでは、企業及び既存の事業の枠を超えスタートアップとの共創活動を加速しています。

研究開発・設備投資

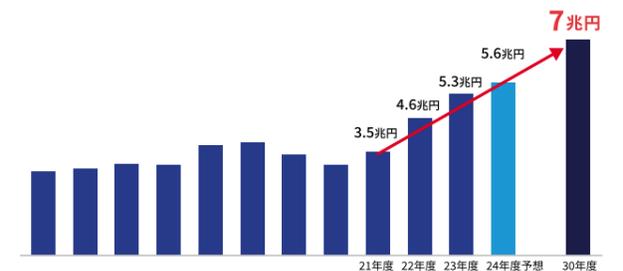
2030年度までに研究開発に2兆円、設備投資に2.5兆円、合わせて4.5兆円規模を投資していきます。4.5兆円のうち、電動化関連投資に2兆円、そのうち5,000億円を電池関連に投資していきます。研究開発への投資は、電動化、バイオガスなどのカーボンニュートラル領域や自動運転などに2兆円を計画しています。設備投資は、バッテリーEV工場の建設や再生可能エネルギー設備などに2.5兆円を計画しています。

2023年度～2030年度の資源投入



連結売上高目標

2023年度の連結売上高は過去最高の5.3兆円となりました。これからも、新興国の成長に貢献することで、スズキもともに成長していき、2030年度の売上高は7兆円規模を目指して挑戦を続けていきます。





◆スズキ環境ビジョン2050

「小さく」「少なく」「軽く」「短く」「美しく」

スズキは、環境問題に対する長期視点の方向性、2050年に当社がありたい姿を示す「スズキ環境ビジョン2050」と、その実現に向けた道標「マイルストーン2030」を発表しました。事業活動から生じる環境影響を「小さく」「少なく」し、地球環境に与える負荷を「軽く」していくこと。さまざまな環境課題の解決に費やす時間を「短く」すること。そして、地球がいつまでも豊かで「美しく」あること。「小・少・軽・短・美」の理念に基づき、スズキが描く未来の実現を目指していきます。

	マイルストーン2030 (2030年までに)	環境ビジョン2050 (2050年までに)
1. 気候変動	Well to Wheel [®] で新車四輪車が排出するCO ₂ 「2010年度比40%減」を目指す 事業活動から排出するCO ₂ を販売台数あたり原単位で「2016年度比45%減」を目指す	Well to Wheel [®] で新車四輪車が排出するCO ₂ 「2010年度比90%減」を目指す 事業活動から排出するCO ₂ を販売台数あたり原単位で「2016年度比80%減」を目指す
2. 大気保全	●事業活動における化石燃料の使用を削減し、再生可能エネルギーの利用を拡大する ●クリーンな製品の開発を推進し、各国・地域の気候改善に貢献する ●生産や製品から生じる揮発性有機化合物(VOC)を削減する	事業活動や製品から排出される大気汚染物質を最小化する
3. 水資源	スズキを取り巻く水リスクを特定し、全生産拠点で取水削減と排水浄化を実施する	水環境への負荷を最小化し、持続可能な水資源利用を実現する
4. 資源循環	●自動車リサイクルシステムのグローバル展開を目指す ●電動車の駆動用二次バッテリーのリサイクル、リビルド、リユースを推進する ●グローバル生産拠点で廃棄物発生量を低減する ●プラスチック梱包材を削減する	日本で培ったリサイクル技術やシステムをグローバル展開し、生産活動および製品から生じる廃棄物の削減と再生利用、適正処理を推進する

※ Well to Wheel: 自動車の走行時にテールパイプから直接排出されるCO₂に、燃料の採掘・精製、電気の発電段階で排出されるCO₂を加える考え方



◆スズキクリーンオーシャンプロジェクト

これまで継続してきた水辺の清掃活動が2020年に10周年を迎えたことを機に、「私たちに今できること」「スズキの船外機にできること」は何かを考え、スズキは海洋プラスチックごみ問題に焦点を当てた新たな取り組み「スズキクリーンオーシャンプロジェクト」を始動しました。従来からの取り組みをさらに発展させるべく、このプロジェクトについて3つの取り組みの柱を打ち立てました。

- [Project 1.] 水辺の清掃活動を継続し、海洋プラスチックごみを回収する
2023年には、活動開始からの累計参加人数が17,000人を突破しました!
- [Project 2.] 製品・部品の梱包材料からプラスチックを削減する
活動開始からのプラスチック削減量は、2024年3月で61.2トンに達しました!



マイクロプラスチック回収装置を取り付けた船外機

◆トピックス◆

[Project 3.] 海洋マイクロプラスチックを回収する

正しく回収されずに海に流れ込む大量の海洋プラスチックごみは近年大きな環境問題となっており、さらにそれらが自然環境下で微細に破碎されたマイクロプラスチックは生態系に及ぼす影響が懸念されています。そこでスズキは、船外機に取り付け可能なマイクロプラスチック回収装置を世界で初めて開発しました*。この装置を船外機に取り付けることにより、走行するだけで水面近くのマイクロプラスチックを回収することができます。このようにスズキは「THE ULTIMATE OUTBOARD MOTOR (究極の船外機)」をお客様の共感を頂きながら環境面においても追及して参ります。なお、本装置は2022年7月より一部の船外機に標準装備されております。 ※2020年10月1日現在、スズキ調べ。



◆世界のCSR取り組み

インド: マルチ・スズキ・インディア社 教育支援

近隣の子供たちに質の高い教育を提供するため、ポダル教育ネットワークと協力してグジャラート州シタプールに学校を設立しました。ポダル学校では、教育上の好事例を取り入れ、道徳的価値観、規律、倫理を教えるを通じ、子供たちの総合的な発達に焦点を当てています。



ポダル学校の児童・生徒たち (左) ポダル学校において活動されている課外活動の様子 (右)

オーストリア: スズキオーストリア社 パラスポーツの支援

当社ではパラスポーツの支援を実施しています。バラクライマーのヤスミン・ブランク(2018年の地元開催の世界選手権で5位)やパラ水泳選手だったアンドレアス・オネア(2016年リオデジャネイロパラリンピックで100m平泳ぎ銅メダル)への支援をはじめ、スズキパワーチームチャリティーラン[®]等のチャリティーイベントを開催しています。

※スズキパワーチームチャリティーラン: インスブルック近郊のイグルスのオリンピック水運河前で開催されるアマチュア選手とその家族で競われるスズキ協賛のイベント



南アフリカ: スズキオート南アフリカ社 盲導犬協会への支援

当社は、南アフリカ盲導犬協会の募金活動を支援するため、協会が行う車両抽選券キャンペーン用に車両の提供(Swift GLXモデル2台)をしています。また、このキャンペーンをより多くの人々に届けるため、マーケティング活動の支援として約5万3千ランドを協会に寄付しています。当社は、6年以上にわたって協会を支援しています。



◆スズキ財団

「スズキ財団」は、スズキの創立60周年の記念事業の一つとして、関連企業とともに基金を寄託して1980年に設立しました。大学や研究機関へ研究助成・普及助成・海外助成の活動を行い、新しい研究に役立てていただいています。財団創立40周年を記念して、顕彰事業として「やましか大賞・特別賞」を創設するなど、活発な活動を展開しています。



財団の概要 (2024年3月31日現在)

- 財団名 公益財団法人スズキ財団
- 所在地 東京都港区東新橋二丁目2番8号
- 理事長 鈴木 俊宏 (スズキ株式会社 代表取締役社長)
- 資産総額 156億2,751万円 (2024年3月31日現在)
- 設立以来の助成件数 2,152件
- 累計助成総額 27億5,616万円

◆スズキ教育文化財団

2000年10月、スズキ創立80周年の記念事業として「スズキ教育文化財団」を設立しました。スズキ教育文化財団は、経済的理由で学業に専念できない静岡県下の若者に対する奨学援助や児童・生徒のスポーツおよび学習活動に対する支援、特別支援学校や外国人学校等に対する支援など、青少年の健全育成を目的とした活動を行っています。



財団の概要 (2024年3月31日現在)

- 財団名 公益財団法人スズキ教育文化財団
- 所在地 静岡県浜松市中央区高塚町300
- 理事長 鈴木 俊宏 (スズキ株式会社 代表取締役社長)
- 資産総額 65億227万円
- 累計助成総額 7億5,537万円

◆スズキアスリートクラブ

スズキアスリートクラブは、オリンピックや世界陸上など国際大会で活躍できる選手の育成を目指し活動し、2004年のアテネオリンピックから2016年のリオデジャネイロオリンピックまで4大会連続で日本代表選手を輩出しています。オリンピックを中心に国内外で活躍するトップアスリートたちは、様々な地域で行われる陸上教室や講演会に協力し、自身の経験を踏まえ、日本の陸上競技の普及と発展、児童の体力向上に寄与しています。今後もスズキアスリートクラブでは陸上競技の楽しさや、スポーツを通じて得られる感動や夢を子ども達に伝える活動を続けてまいります。



◆スズキ歴史館

スズキ歴史館は、2009年4月に開館したスズキの「歴史」や「ものづくり」を紹介する展示施設です。織機・二輪車・四輪車・船外機など、時代とともに歩んできた創業以来の多くの製品と現在のクルマ作りの様子が展示されています。





スズキのモノづくりの根幹を表す「小・少・軽・短・美」を徹底して
「価値ある製品」を世界中のお客様にお届けします。

「価値ある製品」づくりをめざすスズキは、これからの新しい時代、変化する社会に向かって、豊かな感性で
スズキが創造すべき「新しい価値」を絶えず追求め、それを実現するための新しい技術にチャレンジして
います。工場でも、生産性の向上、厳しい品質管理、カーボンニュートラルへの対応などの改善活動に、常に
取り組んでいます。



1 本社 ■ 業務内容: 本社業務 ■ 所在地: 静岡県浜松市中央区高塚町300



2 横浜研究所



3 マリン技術センター



4 電洋コース



5 下川コース



6 湖西工場
■ 業務内容: 軽乗用車・軽商用車・小型乗用車、四輪車エンジン、船外機、電動車いすの生産
■ 所在地: 静岡県湖西市白須賀4520
■ 生産機種: アルト、ワゴンR、DF350A(船外機)等



7 磐田工場
■ 業務内容: 軽乗用車・軽商用車の生産
■ 所在地: 静岡県磐田市岩井2500
■ 生産機種: エブリイ、キャリイ等



8 相良工場
■ 業務内容: 小型乗用車、四輪車エンジンの生産、およびエンジン主要部品の鋳造、機械加工
■ 所在地: 静岡県牧之原市白井1111
■ 生産機種: スイフト、ソリオ等



9 浜松工場
■ 業務内容: 二輪車、二輪車エンジンの生産、二輪車の試験・開発
■ 所在地: 静岡県浜松市浜名区都田町8686
■ 生産機種: Hayabusa、V-STROM 1050等



10 大須賀工場
■ 業務内容: 鋳造部品の製造
■ 所在地: 静岡県掛川市西大淵6333

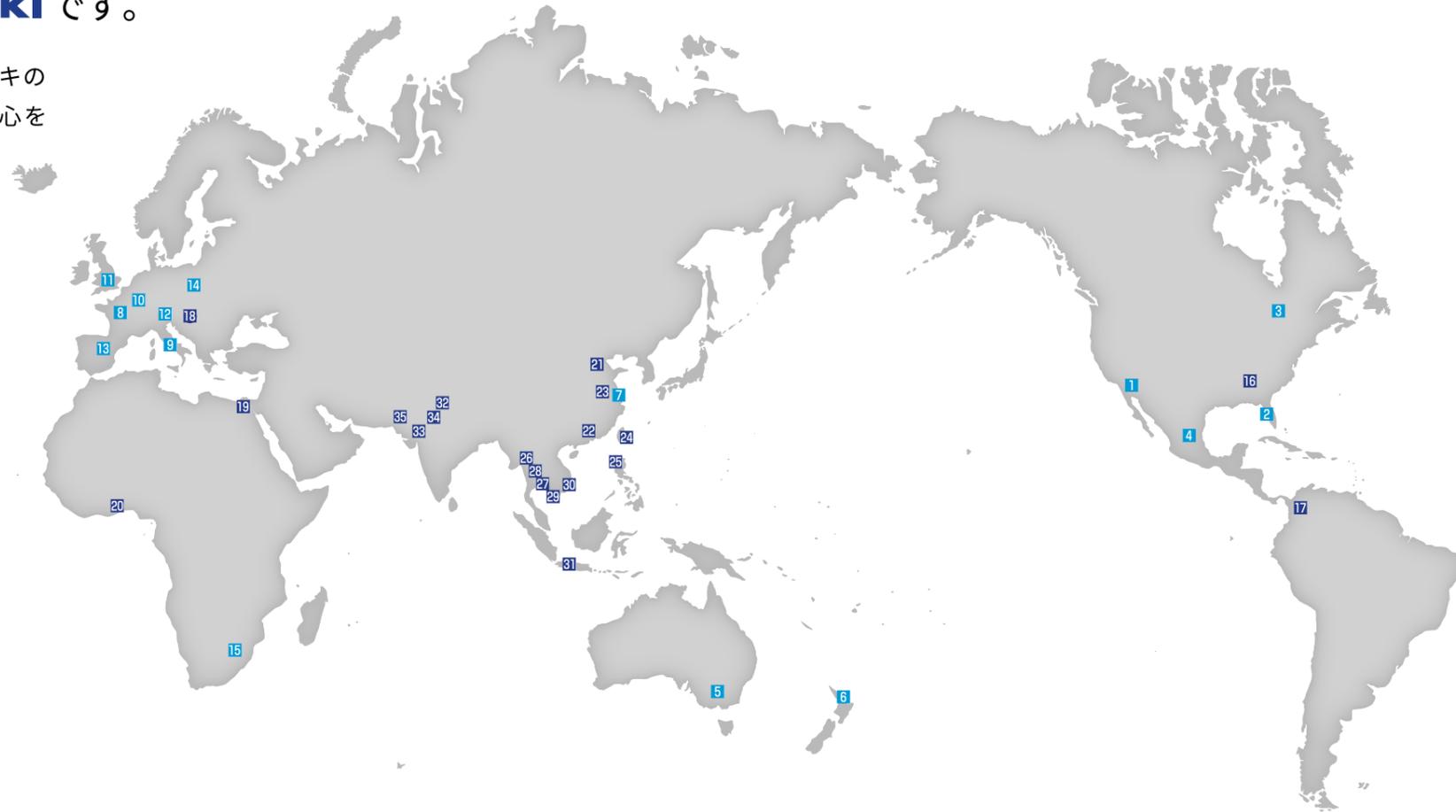


11 金型工場
■ 業務内容: 金型の製造
■ 所在地: 静岡県浜松市中央区新貝町1331



世界のすみずみにまで浸透する、
世界のブランド **SUZUKI** です。

親しみやすく使いやすい、高品質なスズキの
製品は、世界中の国や地域でお客様の心を
しっかりとつかんでいます。



18 マジャールスズキ社 (ハンガリー)



25 スズキフィリピン社 (フィリピン)



31 スズキ・インドモーター・モーター社 チカラン工場 (インドネシア)



32 マルチ・スズキ・インド社 グルガオン工場 (インド)



33 マルチ・スズキ・インド社 マネサール工場 (インド)



38 スズキ・モーター・グジャラート社 (インド)



24 スズキ・モーター・サイクル・インド社 (インド)



35 パックスズキモーター社 (パキスタン)



27 スズキ・モーター・タイランド社 (タイ)



28 タイスズキモーター社 (タイ)



30 ベトナム スズキ社 (ベトナム)

主な海外直営代理店

	四輪車	二輪車	船外機
1 スズキモーターUSA社 (アメリカ)		★	
2 スズキマリンUSA社 (アメリカ)			★
3 スズキカナダ社 (カナダ)		★	★
4 スズキメキシコ社 (メキシコ)	★	★	★
5 スズキオーストラリア社 (オーストラリア)	★	★	★
6 スズキニュージーランド社 (ニュージーランド)	★	★	★
7 スズキ中国社		★	★
8 スズキフランス社 (フランス)	★	★	★
9 スズキイタリア社 (イタリア)	★	★	★
10 スズキドイツ社 (ドイツ)	★	★	★
11 スズキGB社 (イギリス)	★	★	★
12 スズキオーストリア社 (オーストリア)	★	★	
13 スズキイベリカ社 (スペイン)	★	★	
14 スズキモーターポーランド社 (ポーランド)	★	★	★
15 スズキオート南アフリカ社 (南アフリカ)	★	★	★

(2024年3月31日現在)

主な海外生産会社

	四輪車	二輪車	船外機
16 スズキ・マニュファクチャリング・オブ・アメリカ社 (アメリカ)		○ (ATV)	
17 スズキコロンビア社 (コロンビア)		○★	★
18 マジャールスズキ社 (ハンガリー)	○★	★	★
19 スズキエジプト社 (エジプト)	○		
20 豊田通商マニュファクチャリングガーナ (ガーナ)	○		
21 済南軽騎鈴木摩托車有限公司 (中国)		○★	
22 江門市大長江集团有限公司 (中国)		○★	
23 常州豪爵鈴木摩托車有限公司 (中国)		○	
24 台鈴工業股份有限公司 (台湾)		○★	
25 スズキフィリピン社 (フィリピン)	★	○★	★
26 スズキティラワモーター社 (ミャンマー)	○		
27 スズキ・モーター・タイランド社 (タイ)	○★		
28 タイスズキモーター社 (タイ)		★	○★
29 カンボジアスズキモーター社 (カンボジア)	★	○★	
30 ベトナムスズキ社 (ベトナム)	○★	★	
31 スズキ・インドモーター・モーター社 (インドネシア)	○★	○★	★
32 マルチ・スズキ・インド社 (インド)	○★		
33 スズキ・モーター・グジャラート社 (インド)	○		
34 スズキ・モーター・サイクル・インド社 (インド)		○★	
35 パックスズキモーター社 (パキスタン)	○★	○★	★

(2024年3月31日現在)

国内 四輪車事業

小さなクルマ、大きな未来。

スズキは、1955年に軽四輪車「スズライト」を発売して以来、一貫して小さなクルマづくりを追求してきました。実用的な軽自動車として発売され、女性を中心にヒットした「アルト」、軽ワゴンという新しいジャンルを切り拓いた「ワゴンR」、世界で高い評価をいただいているコンパクトカー「スイフト」など小さなクルマづくりの技術を凝縮したスズキの製品は、ご愛用されています。また、これらの製品を安心安全にお乗り続けていただくために、日本中にある代理店、販売店を通じてお客様にサービスを提供しています。



ワゴンR、ワゴンR カスタムZ、ワゴンR スティングレー



ハスラー タフワイルド



ジムニー



スペースシア カスタム



クロスビー



ソリオ



ジムニー シエラ



スイフト



エブリイ



スペースシア ベース



キャリイ



スペースシア 車いす移動車

国内 四輪車事業 (代理店)



サービス工場



ショールーム



店舗外観

福祉機器・産業機器事業

スズキの技術は、福祉機器や産業機器を通じて社会に貢献しています。

二輪車・四輪車の開発で培った技術の応用は、斬新な発想で多角的に広がっています。セニアカーなどの福祉機器や超音波技術を用いた各種の産業機器を通じて社会に貢献しています。

福祉機器



セニアカー ET4D

産業機器



超音波ホッチキス「はるる」
AUH30



超音波カッター
SUW-30CD



超音波溶着機
SUW300

その他の事業

スズキは、子会社の(株)スズキビジネスを通じ、生活・自動車関連のサービス事業も幅広く行っています。

- 不動産事業部
土地開発・販売、分譲マンションの企画・販売、賃貸店舗開発・賃貸、不動産賃貸・売買仲介、太陽光発電、工業団地開発
- 住宅事業部
スズキハウス(本格住宅・小住宅等)建設・販売、住宅リフォーム、太陽光発電設置工事の請負
- オート用品事業部
二輪車・四輪用品の企画・開発・販売、各種イベントの物販運営、販売
- 石油事業部
ガソリンスタンド、一般用LPガス、工場用燃料、潤滑油、ガス類販売等
- 特販事業部
ワイン・はちみつ等国内外各種商品の輸入・販売、日本トリム整水器販売、携帯電話・スマートフォン・タブレット・衛星電話等の通信機器販売、旅行事業(旅行業者代理業)
- 保険事業部
損害保険、生命保険の保険代理店
- 環境美化事業部
ビル管理、生産設備清掃、清掃管理、塗装、除草、伐採等
- ゴルフ事業部
「いなさゴルフ倶楽部」の運営



ハンガリーワイン



いなさゴルフ倶楽部



スズキハウス Vite Smile



プラザ湖西セルフSS

つくるよろこびと使うよろこび。
その国の人々の笑顔が信頼の証です。

「価値ある製品」をつくる、というスズキの企業姿勢は世界各国から多くの賛同をもって迎えられ、現在、海外20の国・地域で25社の現地生産会社が活躍しています。パートナーシップのもとにそれぞれの国や地域の経済発展を望み、産業の育成・雇用の拡大に貢献すべく努めています。



NEXAショールーム:インド (マルチ・スズキ・インド社)

海外生産車



BALENO:インド (マルチ・スズキ・インド社)



CELERIO:インド (マルチ・スズキ・インド社)



VITARA:ハンガリー (マジャールスズキ社)



XL7:インドネシア (スズキ・インドモーター・モーター社)



2023年グジャラート工場、累計生産300万台達成記念式典の様子:
インド (スズキ・モーター・グジャラート社)



2024年マジャールスズキ社、累計生産400万台達成記念式典の様子:
ハンガリー (マジャールスズキ社)



RAIDER R150:フィリピン
(スズキ・フィリピン社)



GIXXER 250:インド
(スズキ・モーターサイクル・インド社)



Address 125:インド
(スズキ・モーターサイクル・インド社)



プレス向け世界統一試乗会 (GSX-S1000GX)



ハンガリー (マジャールスズキ社)



インド (スズキ・モーターサイクル・インド社)



V-Strom 250 :中国
(常州豪爵鈴木摩托車有限公司)



KINGQUAD 500AXi 4x4
Power Steering Special Edition:アメリカ
(スズキ・マニュファクチャリング・オブ・アメリカ社)



DF30A/DF25A:タイ
(タイスズキモーター社)

世界のバイク好きに、バイクのある豊かな生活を提供したい。

この志のもと、「走る・曲がる・止まる」の性能を追求するだけでなく、日常使いから趣味のライディングに幅広く求められる様々な機能を、総合的に最適化して実現する。それがスズキの企画開発力と技術力です。

スクーターからスポーツバイクまで、それぞれに走る道、乗る人、用途は違っても、スズキの社員一人一人が情熱と自信をもって世に送り出し、お届けしている製品です。一台一台にスズキの技術と心が込められています。



GSX-S1000GX※

※掲載の写真は、プロのライダーによるクローズドコースでの走行です。



GSX-8R※



V-STROM 800※



Hayabusa



KATANA



V-STROM 1050DE



BURGMAN 400

豊かなマリンライフをこれからも。

スズキは、1965年に船外機事業に進出して以来、新技術の開発に情熱を持って取り組み続けて参りました。これにより培われた高い技術力は、マリン技術界では世界最高の栄誉の一つとされているアメリカ マリン工業会 (NMMA) の技術革新賞を多くの機種で受賞する等、世界で高く評価されております。

これからもスズキは、「THE ULTIMATE OUTBOARD MOTOR (究極の船外機)」のスローガンのもと、業界をリードする革新的な技術を活かし、耐久性・信頼性・走行性能・利便性・快適性、更には環境性能にも優れた船外機を提供して参ります。そして、世の中の役に立つ「究極のマリンブランド」を実現すべく、脱炭素社会への準備を進めて参ります。



DF200A



DF350A



DF350A



DF300AP



DF250



DF200A



DF140B

感謝。感謝。
感謝の100年でした。



お客さまのためなら、
どんなことをしてでもこたえろ。
頑張れば、できるもんだ。

- 創業者 鈴木 道雄 -

2020年(令和2年)3月15日。
おかげさまで、スズキ株式会社は
創立から100年を迎えました。

1920年3月15日。
鈴木道雄により創立された
鈴木式織機株式会社。
時代の変遷にあわせ、織機から二輪車、
四輪車、船外機など、その製品は広がり、
世界のさまざまな人々の暮らしを
支える会社へと姿を変えてきました。
スズキの100年。それは、
お客様のご愛顧とご支援に
支えられた100年です。
私たちはその感謝を胸に抱き、
創業者鈴木道雄から引き継ぐ
「お客様の立場になって価値あるものを」
というスズキのものづくりの原点を
いつまでも大切に、
これからも「使いやすさ」、「楽しさ」、「驚き」で、
世界中の人々にとってワクワクを提供できる
製品づくりに挑戦していきます。

お客様に感謝をこめて。
スズキの挑戦はこれからも。

1920年 1950年代 1960年代 1970年代

1909年
鈴木道雄、静岡県
浜名郡天神町村で
鈴木式織機製作所
を創業



1920年
鈴木式織機株式会社
として法人設立、
鈴木道雄、社長に就任

1954年
鈴木自動車工業
株式会社に社名変更



1958年
社章  マーク
制定

1962年
社是制定



1964年
竜洋
テストコース完成

1966年
社旗・社歌制定

1969年
富山県
小矢部市に
富山工場が
竣工

1967年
タイズスキモーター社を
設立(スズキ初の
海外二輪車生産工場)

1967年
静岡県磐田市に
磐田工場(四輪車)が
完成

1970年
静岡県小笠郡に
大須賀工場
(鑄造)が竣工



1970年
静岡県湖西市に
湖西工場(四輪車)が
完成



1971年
愛知県豊川市に
豊川工場(二輪車)が完成



1975年
パキスタンで
四輪車の組立を開始
(四輪車初の海外生産)

1979年
豊川特機工場
で船外機の生産を開始

織機事業

1929年
サロン織機開発

1930年
織機の
海外輸出開始



1961年
織機事業を鈴木式織機株式会社
として分社化

1986年
織機の生産を
終了

二輪事業

1952年
自転車用
補助エンジン
「パワーフリー号」
発売

1954年
「コレタCO」
発売



1971年
「GT750」発売



四輪事業

1955年
軽四輪乗用車
「スズライト」発売



1961年
軽四輪トラック
「スズライトキャリイ」
発売



1970年
軽四輪駆動車
「ジムニー」発売



1979年
軽自動車
「アルト」発売



マリン事業他

1965年
船外機
「D55」発売



1974年
電動車いす
「モーターチェア
Z600型」発売

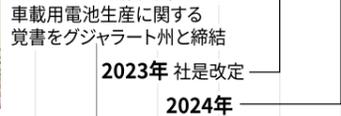
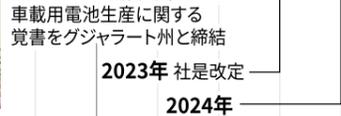
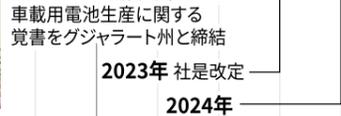
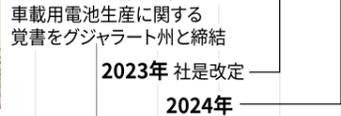
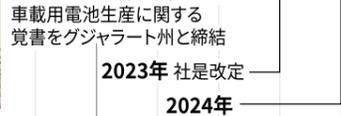


1974年
住宅部門に進出

1936年
四輪車の研究を開始

第二次世界大戦の影響で
四輪車の開発を中断



1980年代	1990年代	2000年代	2010年代	2020年代										
<p>1983年 インド、マルチ社でスズキ四輪車生産開始</p> 	<p>1989年 横浜研究所が完成</p> 	<p>1990年 スズキ株式会社社名変更</p> <p>1990年 ハンガリーでの四輪車 合併生産に基本合意</p> 	<p>1997年 下川テストコース開所</p> 	<p>2002年 インド・マルチ社を 子会社化</p> 	<p>2008年 静岡県牧之原市に相良工場 (四輪車組立工場)が完成</p> 	<p>2009年 「スズキ歴史館」 が開館</p> 	<p>2017年 トヨタとスズキ、業務提携に向けた覚書を締結</p> 	<p>2017年 インドのグジャラート工場が稼働</p> 	<p>2018年 静岡県浜松市に 浜松工場(二輪車)が完成</p> 	<p>2020年 スズキ創立100周年</p> 	<p>2022年 インド事業40周年</p> 	<p>2022年 インドでの電気自動車および 車載用電池生産に関する 覚書をグジャラート州と締結</p> 	<p>2023年 社名改定</p> 	<p>2024年 持続的成長を目指して 人的資本を増強</p> 

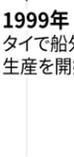
二輪事業

<p>1981年 「GSX1100S KATANA」 発売(輸出)</p> 	<p>1985年 「GSX-R750」発売</p> 	<p>1995年 「DR250R」発売</p> 	<p>2001年 「GSX-R1000」 発売(輸出)</p> 	<p>2006年 「ブルバード M109R」 発売(輸出)</p> 	<p>2015年 「GSX-S1000 ABS」、 「GSX-S1000F ABS」発売</p> 	<p>2021年 「Hayabusa」 発売</p> 
<p>1983年 「RG250」発売</p> 	<p>1991年 「アドレスV100」発売</p> 	<p>1999年 「Hayabusa」(GSX1300R) 発売(輸出)</p> 	<p>2002年 「スカイウェイブ650」発売</p> 	<p>2014年 「V-Strom 1000 ABS」発売</p> 	<p>2018年 「KATANA」発売</p> 	<p>2024年 「GSX-8R」発売</p> 

四輪事業

<p>1983年 小型車「カルタス」発売</p> 	<p>1988年 四輪駆動車「エスクード」発売</p> 	<p>1991年 軽乗用車「カプチーノ」発売</p> 	<p>1993年 軽乗用車「ワゴンR」発売</p> 	<p>2004年 小型車「スイフト」発売</p> 	<p>2006年 小型車「SX4」発売</p> 	<p>2011年 小型車「ソリオ」発売</p> 	<p>2013年 軽乗用車「スペーシア」発売</p> 	<p>2014年 軽乗用車「ハスラー」発売</p> 	<p>2016年 小型車「パレーノ」発売</p> 	<p>2021年 軽乗用車「ワゴンR スマイル」発売</p> 	<p>2023年 小型車「スイフト」発売</p> 
--	---	--	--	--	---	---	--	---	--	--	--

マリン事業他

<p>1980年 発電機事業に進出</p> 	<p>1981年 船外機 「DT140」 発売</p> 	<p>1985年 セニアカー 「ET10型」発売</p> 	<p>1987年 船外機 「DT200EXANTE」 発売(輸出)</p> 	<p>1988年 船外機 「DF70」 発売</p> 	<p>1989年 タイで船外機の 生産を開始</p> 	<p>1997年 船外機 「DF9.9」 発売</p> 	<p>1998年 船外機 「DF250」 発売</p> 	<p>1999年 セニアカー 「ET4A」発表</p> 	<p>2001年 カインドチェア 「AC22」発表</p> 	<p>2003年 船外機 「DF250」 発売</p> 	<p>2005年 「タウンカート」 発売</p> 	<p>2008年 船外機技術センター竣工</p> 	<p>2010年 船外機 「DF50」 発売</p> 	<p>2017年 船外機 「DF350A」発売</p> 	<p>2022年 「DF140B/BG、DF115B/BG、DF100C」 にマイクロプラスチック回収装置を 標準装備</p> 
---	---	--	---	--	--	---	---	--	---	---	--	--	--	---	---

※写真はDF140B